

2019年1月30日

各都道府県産婦人科医会会長 殿

公益社団法人日本産婦人科医会
会長 木下勝之
副会長 平原史樹
“風疹ゼロ”プロジェクト担当

謹啓、時下先生方にはますますご清祥の御事とお喜び申し上げます。

さて風疹が2018年7月から大都市中心に流行し全国で約3000名の罹患者が発生し、その勢いはいまだ衰えない様相を示しております。日本産婦人科医会は2016年夏から“風疹ゼロ”プロジェクト【<http://www.jaog.or.jp/news/rubella181031/>】を立ち上げ、2013年のような大流行を再び起こさせないためにも全国民挙げての風疹排除へ向けた活動を進めております。

このリーフレットは日本医療研究開発機構（AMED）『妊娠中の風疹罹患および先天性風疹症候群発生抑制に関する予防対策、今後の風疹ワクチンのあり方に関する研究』班（平原史樹）の補助を受け作成したものです。貴支部内でぜひ広く地域の皆さんへ配布願えれば幸いです。

なお今回の配布は流行地区の支部を中心にご送付したことを申し添えます。

また発送元は平原班の委託で配送しているため長谷川印刷所になっている点をご了承ください。また日本産婦人科医会本部事務局には若干のストックがありますので必要な折には本部担当事務田中さんまでご一報頂ければ幸いです。

皆様のご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。

謹白

記 風疹と先天性風疹症候群 Q & A リーフレット 2000部

風疹と先天性風疹症候群

Q & A

まわりで風疹が流行しています。
妊娠しているのですがどうしたら
良いのでしょうか？

人ごみ、とくに子供さんの多い場所はさげましょう。風疹の抗体検査を受けていない方は、早めに検査を受けましょう。風疹の抗体検査で抗体価の低い(HI抗体検査で16倍以下など)妊婦さんは、とくに注意してください。そして、お産が終わったらすみやかに風疹ワクチンの接種を受けましょう(産科の主治医にお尋ねください)。

かぜの症状に発疹(赤いブツブツなど)がでたりした場合はもとより、風疹の患者さんと会ったり、風疹の患者さんと接触しやすい職業の場合には、必ずかかりつけの先生にご相談してください。ただし、発疹がでているあいだは、まわりの方への影響もあります。産婦人科には電話であらかじめ相談して受診方法の指示をもらうようにしてください。

妊娠初期に風疹にかかったのでは？
と疑われました。

過剰な心配は禁物です。とくに、あなた自身に症状がなく、まわりにも風疹患者さんがいなかった場合には、赤ちゃんへの影響は大変まれなことです。赤ちゃんをすぐにあきらめる必要はありませんので、主治医の先生によく相談して、さらに必要な場合は主治医から専門相談窓口のある専門施設(裏面に施設名一覧が記載されています)に問い合わせてもらいましょう。



● 詳しい情報は ●

国立感染症研究所 感染症疫学センター
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/>



公益社団法人 日本産婦人科医会
<http://www.jaog.or.jp/>

各地区ブロック相談窓口

風疹罹患のおそれのある妊婦に対する2次相談施設

北海道	北海道大学病院 産科
東北	東北公済病院 産科・母子センター 宮城県立こども病院 産科
関東	ミューズレディスクリニック(埼玉県) 帝京大学医学部附属溝口病院 産婦人科 国立成育医療研究センター 周産期・母性診療センター 産科 横浜市立大学附属病院 産婦人科 国立病院機構横浜医療センター 産婦人科 神奈川県立こども医療センター 産婦人科 杏林大学医学部附属病院 産婦人科
東海	名古屋市立大学病院 産科婦人科
北陸	石川県立中央病院 産婦人科
近畿	国立循環器病研究センター病院 周産期・婦人科 大阪母子医療センター 産科
中国	川崎医科大学附属病院 産婦人科
四国	国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センター 産科
九州	宮崎大学医学部附属病院 産科婦人科 九州大学病院 産科婦人科

日本医療研究開発機構研究班(研究代表:大石和徳)

『妊娠中の風疹罹患および先天性風疹症候群
発生抑制に関する予防対策、
今後の風疹ワクチンのあり方に関する研究』班
(平原史樹)

日本産婦人科医会・日本小児科医会



風疹から
生まれてくる全ての赤ちゃんを
みんなで守ろう!!
予防接種は
全ての男性も受けてください!!
うつらない・うつさない為に!!



■ 予防接種を受けて風疹を防ぎましょう

男性こそが予防接種を受けてください！最近では**特に30代～50代の男性が流行の発生源**になっている場合が多く、予防接種を受けないと社会から流行がなくなりません。**夫から、職場の同僚から**妊婦さんにうつし、生まれてくる赤ちゃんが先天性風疹症候群をもつ可能性が生じます。社会全体でこれから生まれてくる新しい命のために、**男女をとわず風疹の予防接種***を受けて下さい。

*現在風疹の予防接種には、**麻疹・風疹混合ワクチン(MRワクチン)**が使われます。

■ なぜ、風疹の予防接種が重要なのですか？

風疹の予防接種をおこなう第一の目的は、先天性風疹症候群を予防することです。日本では風疹の予防接種を受ける人が多くないため、各地で散発的な小流行が生じています。風疹にかかったことがなかったり、予防接種でつけた免疫が弱くなってしまった妊婦が、流行にまきこまれてしまうことがあります。

風疹の予防接種は、脳炎や血小板減少性紫斑病を予防したり、大人の風疹が重症になることも予防します。そして、多くの人が予防接種を受けて風疹の流行がなくなれば、妊婦への危険もなくなります。



■ 職場で風疹は流行しています

最近の風疹のり患は**職場での男性からの感染**が多くなっています。職場での流行に注意するとともに、職場(特に男性)でのMRワクチン接種が強く勧められています。接種の推進を職場の全員で一丸となって進めましょう。

■ 風疹とはどんな病気ですか？

春先から初夏にかけて風疹ウイルスにより流行する急性の感染症です。患者さんの飛まつ(唾液のしぶき)などでほかの人にうつります。潜伏期間は2～3週間で、発疹、発熱、リンパ節のはれなどが認められます。感染しても無症状のまま免疫ができる人もいます。一度かかると、多くの人は生涯風疹にかかることはありません。

子供ではほとんど軽い病気ですが、2000人から5000人に一人くらいは、脳炎や血小板減少性紫斑病など重症になることもあります。大人では症状が長びいたり、関節痛がひどかったりすることがあります。

■ 先天性風疹症候群とはどんな病気ですか？

妊娠初期(妊娠20週まで)にかかると、難聴、心疾患、白内障、あるいは精神や身体の発達のおくれなど、障害をもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。これらの障害を先天性風疹症候群といいます。

先天性風疹症候群がおこるかどうかは、妊娠のどの時期に風疹にかかったかによります。また、先天性風疹症候群の赤ちゃんがこれらすべての障害をもつとはかぎりません。

■ 女性が風疹の予防接種をうける場合に注意することがあると聞きましたが？

妊娠中は風疹の予防接種を受けることはできません。妊娠可能な年齢の女性は、妊娠していない時期(生理中、またはその直後がより確実)に接種を受けて、その後2ヶ月間は避妊してください。

風疹のワクチンはたいへん安全で、妊娠中に接種を受けたために胎児に障害がでたという報告はこれまではありませんが、念のための注意が必要です。なお、MRワクチン接種後の授乳はさしつかえありません。



■ 子供のころに風疹にかかったのですが、予防接種は必要ですか？

風疹の予防接種を受けたことがないのなら、なるべく早く接種を受けることをおすすめします。たとえこれまでに風疹にかかっていたとしても、予防接種を受けることによって特別な副反応がおこるなど、問題がおこることはありません。むしろ風疹にたいする免疫を強くする効果が期待されます。

■ 妊婦の家族ですが、風疹ワクチンの予防接種を受けても良いのでしょうか？

心配はありません。MRワクチンを接種してから3週間のあいだは、のど(咽頭)からワクチンウイルスの排泄が認められることもありますが、まわりの人には感染しません。むしろ、予防接種していない家族が自然に風疹にかかり、妊婦にうつすほうがよほど危険です。最近では子供さんからはもとより、**夫、同居成人男女、職場からの風疹感染**が多く見られます。



■ 風疹予防接種の重大な副反応にはどのようなものがありますか？

麻疹・風疹混合ワクチン(MRワクチン)は、副反応の少ない非常に安全なワクチンの一つです。しかし、ごくまれにショックや全身のじんましんなどを認めることがあります。

たとえば、厚生労働省の予防接種後副反応報告書集計報告書によると、血小板減少性紫斑病は140万人の接種で1人程度と報告されています。ただし、自然に風疹にかかって血小板減少性紫斑病となるのは3000人に1人程度ですから、ワクチン接種による副反応の方がはるかにまれです。